

大黒屋光太夫記念館だより「大<sup>だい</sup>光<sup>こう</sup>」第8号

ツル 大光

2009年5月発行

題字：大黒屋光太夫書「ツル」の署名より



### 光太夫・磯吉の肖像

光太夫と磯吉の肖像は、「漂流御覧之記」に描かれた姿絵が有名です。この図は、その姿絵と同じ構図をとっています。光太夫・磯吉の肖像画は、漂流記などの挿絵に描かれたりするのみで、この資料のように単独では発見されていませんでした。

平成20年度に鈴鹿市が購入し、今回初めて公開する新資料です。

編集・発行： 鈴鹿市文化振興部 文化課 Tel 059-382-9031  
大黒屋光太夫記念館 Tel & FAX 059-385-3797

# 企画展 光太夫の肖像

「光太夫って、どんな顔をしていたの??」

小学校の校外学習などでよく受ける質問です。

「(銅像を指して) こんな顔しとったん?」「うーん、これはちょっと男前かなー。」

記念館ではこんな会話もよく交わされています。

光太夫の風貌は、どんなだったのでしょうか。

光太夫の肖像は、あまり多くは残っていません。

その中では、「漂民御覧之記」に描かれたものが有名です。しかし、「漂民御覧之記」の写本は非常に多く残っていますが、原本は不明であるため、光太夫の顔を正確に伝えるものではありません。他には、鈴鹿市所蔵の「漂流人帰国松前堅之図并異国人相形図」・「芝蘭堂新元会図」や、天理図書館の「ヲロシヤ人物并小屋内図」、加藤曳尾庵「我衣」などにも光太夫が描かれています。

これらの中で、光太夫を直接見た人が描いたものやオリジナルに近い写本と思われるものに描かれた光太夫を比べてみると、ある共通点が現れます。

それは、たれ目・大きな鼻・特徴的な眉毛・ちょっと太めという特徴です。

今回、初公開の「大黒屋光太夫・磯吉画幅」の光太夫も、これらの特徴を備えています。展示してある資料やパネルなどを見比べながら、光太夫の顔を想像して頂きたいと思います。

## ☆主な展示資料

- ・大黒屋光太夫・磯吉画幅 鈴鹿市
- ・漂流人帰国松前堅之図并異国人相形図 鈴鹿市
- ・芝蘭堂新元会図 鈴鹿市
- ・漂民御覧之記(写本7点) 鈴鹿市他
- ・「日本漂流譚」 鈴鹿市
- ・ヲロシヤ人物并小屋内図 複製 天理図書館
- ・魯西亜国漂泊聞書 複製 東洋文庫 など

## おしえて こうだゆうくん! 第4回

質問: 光太夫が日本人で初めて紅茶を飲んだと聞いたのですが・・・?

答え: 11月1日は、「紅茶の日」です。日本紅茶協会が昭和58年に決めました。

その理由は、大黒屋光太夫が、エカテリーナ2世のお茶会に招かれ、日本人としてはじめて正式なお茶会で紅茶を飲んだことにちなんで制定したということです。

ところで、光太夫が、エカテリーナ2世に公式に招かれたのは、1791年の6月と10月の2回が記録に残っていますが、お茶会に招かれた記録はありません。しかし、「北槎聞略」などには、エカテリーナ2世や皇太子などから正式な招待以外にも度々お召をうけたことが書かれており、お茶会に招かれる機会もあったかもしれません。

また、光太夫は日本への帰国に際して、様々なお土産を貰ってきています。そのリストの中には「茶」という文字も見られます。そして、根室での様子を描いた「ヲロシヤ人物并小屋内図」には、寛ぐ光太夫たちとともにティーセットも描かれています。

日本へ初めて紅茶を持ち込んだのは、光太夫だったということはできるかもしれません。





# 光太夫のファッション・チェック!

## check ①

ロシア皇帝・エカテリーナ2世から頂いた金メダル。  
純金製で、表にはエカテリーナ2世の肖像が彫られています。

このメダルは、格別の勲功ある平民に贈られるもので  
賜ったのはロシア本国でもたった2人しかいません。  
これを首にかけて者はロシア本国はもちろん、  
所属する国々どこに行っても大切に扱われるという  
フリーパスでもあります。

## check ②

髪は三つ編みにして後ろに垂らし、  
それを黒い絹布で包んでいます。

## check ③

洋服はすべてロシアから持ち帰って来たものです。  
銀モール製の筒袖のコートとお揃いのズボンをはいています。  
下着は紺地の綿です。  
足には白メリヤスのタイツの上に黒いベルシヤ革のブーツをはいています。

## check ④

光太夫が手に持っているのは  
魁蓐(マルト)の杖です。  
磯吉は毛織の帽子を手に持っています。



# 文化課からのお知らせ

第4回特別展「光太夫、船出の湊 - 白子大絵図でめぐる -」では、故 長谷川勇さんの撮影された白子周辺の古写真を展示いたしました。多くの方が足を止められて、懐かしい風景に昔を偲んで頂いたようです。

ところで、今年は伊勢湾台風から50年にあたります。鈴鹿市文化課では伊勢湾台風の記録を後世に伝えるために、今度は伊勢湾台風の古写真展を開催したいと考えています。ご自宅に伊勢湾台風の古い写真などがございましたら、是非情報をお寄せ下さい。

また、鈴鹿市内の様子を写した古い写真や古文書・歴史資料などもございましたら文化課までご連絡を頂けると幸いです。古い記録は、私たちの暮らす地域の文化を伝える大切な宝物です。

連絡先 鈴鹿市文化振興部 文化課 Tel.059-382-9031  
〒513-0817 三重県鈴鹿市神戸一丁目 18-18  
e-mail bunka@city.suzuka.lg.jp

**\*大黒屋光太夫記念館は、鈴鹿市文化振興部文化課が所管する資料館です\***

以下の所管資料館も併せて是非ご来館ください。

- ・伊勢型紙資料館（鈴鹿市白子本町 21-30 Tel.059-368-0240）
- ・庄野宿資料館（鈴鹿市庄野町 21-8 Tel.059-370-2555）
- ・稻生民俗資料館（鈴鹿市稻生西 2-24-28 Tel.059-386-4198）

各館のパンフレットは受付で配布しています。

## 事業報告

\*平成20年度開館業務

入館者数: 4692人 開館日数: 249日 平均入館者数:18.8人/日

開館時間:10:00-16:00 休館日:月曜(休日は開館)・火曜・第3水曜日・年末年始

\*第4回特別展「光太夫 船出の湊-白子大絵図でめぐる-」

会期:平成21年2月11日(水)~5月10日(日) 開館日数:55日

入館者数: 1978人 平均入館者数:36人/日 図録発行部数:1000部

\*寄贈資料 3月18日「芙蓉館木翁草稿」多気町 大西春海様より

\*購入資料「大黒屋光太夫・磯吉画幅」

## 編集後記

今回から大黒屋光太夫記念館だよりのタイトルを「大光(ダイ・コー)」といたしました。

「大光」とは大黒屋の「大」と光太夫の「光」をとったもので、光太夫自ら「大光(ダイ・コー)」と署名した墨書も多く残されており、光太夫のニックネームのようなものです。より親しみやすい記念館だよりのなるよう願いを込めて冠しました。

題字は、先日川出和彦様より寄贈された光太夫書「鶴」の袱紗から署名の部分を取らせていただきました。光太夫の直筆で「Д а ы к о о」(ロシア文字でダイ・コー)と書かれています。今後とも大黒屋光太夫記念館および記念館だよりの「大光」をよろしく願いいたします。